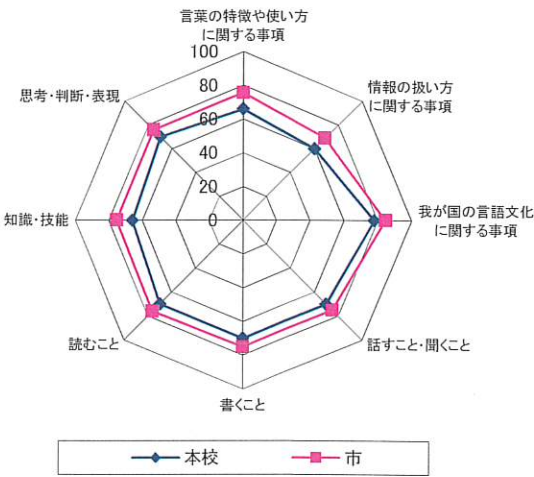


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	66.0	75.6	66.5
	情報の扱いに関する事項	60.0	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.0	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	70.0	75.3	69.4
	書くこと	70.0	75.2	65.1
	読むこと	70.0	76.2	68.8
観点別	知識・技能	66.0	75.3	66.7
	思考・判断・表現	70.0	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

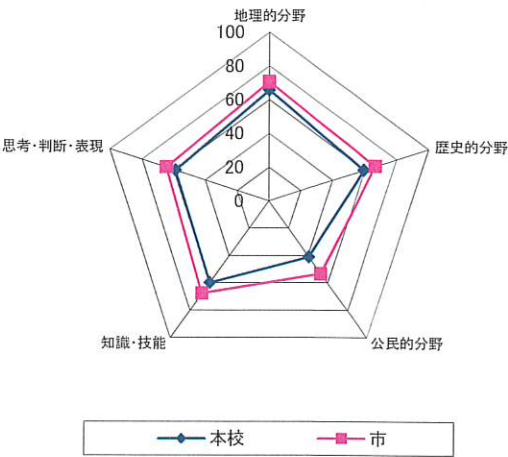
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●漢字の読み書きの問題では、読む問題・書く問題共に市の平均を約16ポイント下回っている。読みを問う問題では「欺く」、書きを問う問題では「あずける」の正答率が特に低かった。 ○対義語を選ぶ問題では、市の平均を1.1ポイント上回っている。	●良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な①漢字の成り立ち・②音読みと訓読み・③部首の知識の3点を身に付け、それを漢字の学習に生かせるようにする。 ・家庭での学習時間を充実させ、授業で学習した内容の定着が図られるよう、「家庭での学習の進め方」や「時間の使い方」などの指導を継続していく。 ・日常生活では使わない漢字の定着のためにも、語彙力を養っていく。
情報の扱いに関する事項	●情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題が、市の平均を9ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題は、市の平均を約9ポイント下回っている。	・複数の情報を読み取って思考する問題では、解答率自体が下がる傾向が見られる。問題に示されている解答の条件を整理し、問題に正確に解答する力を養っていく。 ・作文などの演習を通して、問題を正確に理解し、条件に合わせて文章を書く力を伸ばしていく。
我が国の言語文化に関する事項	●現代語訳を手掛かりに古文の内容を読み取る問題が、市の平均を6.7ポイント下回っている。	・古文の読解の問題では、読解の流れを整理し、「どんなことに注意しながら読み取りを進めていくか」が明確になるようにしていく。また、この指導と合わせて、読解に必要な知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	●話の展開を予測しながら聞く問題と、自分の考えが分かりやすく伝えるための表現の工夫を考える問題では、市の平均を4ポイント程度下回っている。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話し方の工夫を記述する問題では、市の平均を8.6ポイント下回っている。	・問題文から文章の条件を正しく読み取る力を伸ばしたり、「書くこと」に対する抵抗感を軽減したりする指導を継続していく。 ・要点を捉えながら話を聴く姿勢を醸成する。
書くこと	○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題では、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わるよう工夫して文章を書く問題では、市の平均を8.9ポイント下回っている。	・自分の考えについて根拠を明確に書く問題については、書いた文章を生徒同士で批評し合うなどして、自分の文章を見直したり書き直したりする練習を行っていききたい。 ・図表やグラフから読み取った内容を書く問題については、モデルとなる型や文章を提示し、それを用いて生徒自身が文章を書く演習を行っていききたい。
読むこと	○論理の展開の仕方を捉える問題では、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●文学的文章において、物語の展開の仕方を捉える問題では、市の平均を14.8ポイント下回っている。	・説明的文章については、段落ごとに読むようにし、接続語や指示語、文末表現などに留意し、筆者の主張やそれを支える具体例を捉えられるようにしていく。 ・文学的文章については、「誰の言動か」を丁寧にたどり、登場人物の言動を根拠に、その気持ちや行動の理由などを整理できる力を伸ばしていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.7	70.5	62.1
	歴史的分野	59.3	66.6	57.8
	公民的分野	41.0	53.3	45.2
観点別	知識・技能	59.8	67.6	59.2
	思考・判断・表現	58.8	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

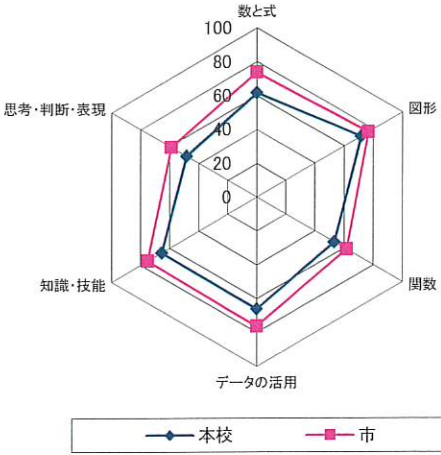
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界のさまざまな宗教について、宗教の特色についての理解をもとに判断する問題の正答率が、市の平均を4.7ポイント上回った。 ●市の平均より4.8ポイント下回っている。特に日本の自然災害(地震)による被害についての理解をもとに判断する問題では、市の平均を16.8ポイント下回った。	・3分野において、知識の習得に重点を置き基礎学力を高めしていく必要がある。AIドリルやワークブックを活用し、繰り返しドリル的な学習をさせていきたい。 ・一つ一つの社会的事象を関連付けて考えさせる習慣を授業の中で育てていきたい。
歴史的分野	○開国による日本社会への影響について、複数の資料をもとに判断する問題の正答率が、市の平均を11.7ポイント上回った。 ●市の平均より7.3ポイント下回っている。特に大日本帝国憲法の制定について資料をもとに考察する問題では、市の平均を17.6ポイント下回った。	・授業において、資料の読み取り方を身につけさせる指導を進めていく。
公民的分野	○さまざまな新しい人権が認められるようになった背景について考察し記述する問題では、市の正答率とほぼ同じであった。 ●市の平均より12.3ポイント下回っている。特に公共の福祉と社会権の種類の理解がそれぞれ市の平均を17ポイント余り下回った。	・公民的分野への興味、関心を高められるよう時事問題等を取り入れながら授業を行う。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	61.7	73.8	71.4
	図形	71.7	76.7	67.9
	関数	53.0	61.6	52.2
	データの活用	66.0	76.4	65.4
観点別	知識・技能	65.7	75.2	69.9
	思考・判断・表現	48.6	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

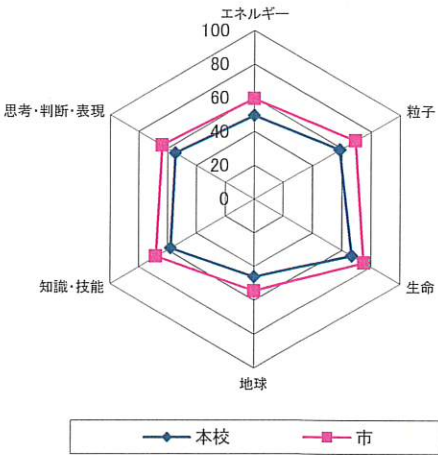
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の計算や同類項をまとめる問題は全国平均よりも正答率が上回った。 ●因数分解や、平方根の大小、二次方程式の基本的な問題など3年生の内容が全国平均より大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業での問題演習、家庭学習が足りていない。また、授業中に公式をただ暗記させるのではなく、「なぜそうなるのか」を説明しあったり、発見して自分たちの言葉で公式を作らせたりすることが重要である。 ・1、2年生の内容を中心に系統的に学習を進めていく必要がある。2次方程式の復習をする前に1次方程式や式の変形などに立ち返って復習していく。また、同じ問題を何度も繰り返し学習させる。
図形	○平行線の性質や、図形の移動については全国平均を上回った。 ●ほぼすべての問題において市の平均から5ポイント程度下回っている。	・角度を求める問題や図形の移動など計算を伴わない問題は取り掛かりが良好なので問題演習を増やしていく。 ・扇形の面積など計算が必要な問題は1つ1つ丁寧に原理を説明しながら授業を進めていく。
関数	●すべての問題において、市の平均を下回った。特にグラフ上の正方形の辺の長さを求める問題では、市の平均を10ポイント以上下回った。	・関数とは何か、比例とは何か言葉で確認していく必要がある。また、表や式、グラフがどのようなところで関連しているのかを時間をかけて丁寧に確認していく。 ・授業中の活動では、思考力を問う問題に関して、解き方の流れを子どもたち同士で説明させ合うなどして考え方の共有を図る。
データの活用	○ヒストグラムから全体の傾向を読み取る問題は全国平均を上回った。 ●確率の問題で市の平均を10ポイント以上下回った。	・2年生の「確率」では、樹形図を正確にかけるかどうか授業中に確認していく。特に「区別があるのか」というところに焦点を置いて指導していきたい。 ・1年生の「データの分布と傾向」では、度数分布表の「度数」「階級」など小学校で学習した言葉が定着していないことも考えられるので言葉の意味を確実に理解させたい。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	49.5	59.3	62.1
	粒子	58.7	69.5	66.8
	生命	66.9	75.2	70.9
	地球	46.0	54.4	52.0
観点別	知識・技能	57.9	67.7	67.2
	思考・判断・表現	54.8	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

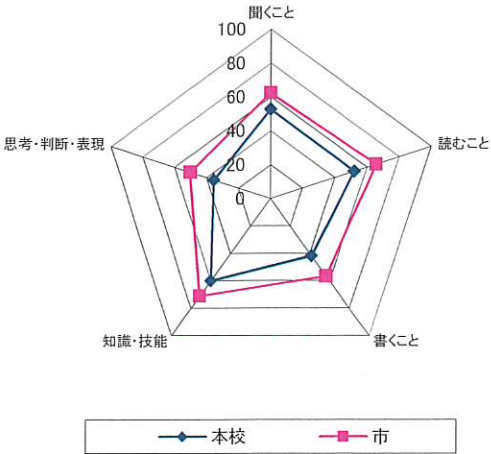
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●光の反射と生活との関連に関する設問は、市の平均を10ポイント以上下回っている。 ●磁力線に関する設問は市の平均を12ポイント以上下回っている。 ●物体の運動について、テープの長さから速さを答える設問は市の平均を10ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な概念の形成の段階でつまづきが見られる。丁寧に説明し、ドリル学習を繰り返し行い定着を図っていく。 ・物理量が何を意味するのか考える活動を続けていく。 ・方眼用紙や方眼黒板を使った作図練習を繰り返し続けていく。
粒子	○物質を見分ける設問は市の平均をわずかに上回った。 ●メスシリンダーの使い方や、金属を見分ける方法などの実験の技能に関する設問は市の平均を14ポイント以上下回った。 ●電離に関する設問は市の平均を10ポイント以上下回っている。	・実験の機会が少なかったため、実験の技能に対する定着度が低い。授業の中で積極的に実験を行い、経験的学習の機会を増やしていく。 ・ドリル学習を繰り返し行い、基本的な内容の定着度の向上を目指す。
生命	○植物の根のつくりに関する設問は、市の平均を1.4ポイント上回った。 ●肺胞のはたらきを記述する設問は、市の平均を19ポイント下回った。 ●生殖細胞に関して語句を答える設問では、市の平均を12ポイント以上下回った。	・生物の特徴を覚えるだけでなく、日ごろの実験の中で着眼点を提示し、理由や利点をよく考えさせ論理的に説明する活動を取り入れていきたい。 ・ドリル学習を繰り返し行い、基本的な内容の定着度の向上を目指す。
地球	●火成岩のつくりや成り立ちを答える設問の正答率は、市の平均を11ポイント以上下回っている。 ●大気圧の大きさを求める設問の正答率は、市の平均を11ポイント以上下回っている。	・ドリル学習を繰り返し行い、基本的な内容の定着度の向上を目指す。 ・自然豊かな立地を生かし、素材を準備し、実感を伴った理解となるように積極的に実験を行う。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	52.8	62.4	59.8
	読むこと	52.3	65.7	58.5
	書くこと	41.8	56.8	43.5
観点別	知識・技能	60.0	71.2	65.3
	思考・判断・表現	35.4	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均を下回っている。 ○英文を聞きその内容に合う英文を選ぶ問題では市の平均に近い結果を残している。 ●対話文の応答や、対話の要点を捉える問題では正答率が下がり、市の平均を大幅に下回った。	・英文を聞く前に問題をよく読ませ、どういう英文が流れるのかを推測した上で聞く習慣をつける。また、聞き終わった後に解答が適切かどうか確認をする習慣をつける。
読むこと	市の平均を大幅に下回っている。 ●既習の文法事項の定着が不十分である。また、語彙の理解が不足しているため長文の内容が良く理解できていない。	・英文の内容を理解するために必要な語彙については、単語テスト等を継続的にを行い定着を図る。また、既習の文法事項については、問題練習をくり返し定着を図る。 ・長文問題への対応については、教科書の本文や副教材の文章をもとにした練習問題に数多く取り組み、実践力をつける。
書くこと	市の平均を大幅に下回っている。 ●単語を並べ替えて書く英作文で約13ポイント、場面に応じて書く英作文で約16ポイント、テーマに沿って自分の考え等を書く英作文で約17ポイント市の平均を下回っており、3領域の中で最も正答率が低かった。基本となる語彙力や既習の文型を使って表現する力が不足している。	・語彙力については「読むこと」同様に単語テスト等を行い定着を図る。 ・英作文については、授業で行っている既習の文型を使用したドリル形式の作文練習に加えて、自分の考えを英文で書く練習量を増やすなどして作文力をつける。

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習課題を自分事としてとらえ、自分の考えや意見をしっかりとらせる工夫	・生徒の考えを引き出し、考えを深められるよう発問を吟味する。 ・生徒が自分の意見や考えを明らかにできるような手立てを工夫する。	質問項目『自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる』への肯定割合は、1, 3年生は市の平均を上回っている。また、『グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している』への肯定割合は全学年、市の平均を上回っている。話し合い活動へ積極的に参加し、根拠を明確にした考えをもつことがおおむねできている。
授業の目標や本時のねらいを焦点化した「わかる授業」の推進	・既習事項を生かしたためあてを提示し、学習意欲につなげる。	質問項目『学校の授業がどの程度わかりますか。』への肯定割合は、1, 2年生は市の平均を上回っている。しかし、学習時間を問う質問への回答から、学習時間が全体的に市の平均と比べると短いことが分かる。分かったことを定着させるために必要な学習時間、学習方法や家庭学習について、継続して具体的に指導していく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「何ができるようになったか」を伝えあったり書いたりする言語による振り返りの充実を図る。
- ・学校と家庭との連携を強化し、家庭学習時間の確保と質の向上を図る。